

国語科学習指導案

日 時 平成 28 年 10 月 31 日 (月) 3 校時

生 徒 2 年 1 組 男子 17 名, 女子 16 名, 合計 33 名

指導者 一関市立磐井中学校 井上 栄光

- 1 単元名 君は「最後の晩餐」に魅力を感じたか?～文章の展開から筆者の意図を読み取る～
中心教材「君は『最後の晩餐』を知っているか(光村図書)
補助教材「齋藤孝のざっくり!美術史」(祥伝社)

2 言語活動とその特徴について

本単元の中心的な指導事項は、「読むこと(1)ウ 文章の構成や展開, 表現の仕方について, 根拠を明確にして自分の考えをまとめること。」である。この指導事項について本単元において学習する「文章の構成や展開, 表現の仕方」は, 以下のとおりに考えた。

- i 序論部分での話題提示をするために設けられた「同意を得るための疑問文」
- ii 本論部分から結論部分にかけての「絵画の科学」の順序性とその意図
- iii 今度は自分で見てほしいという結論部分へと読者を惹きつけようとする文章展開の工夫

これを言語活動「読むこと(2)イ 説明や評論などの文章を読み, 内容や表現の仕方について自分の考えを述べること。」を通して指導する。

本単元の最後に, 中心教材と補助教材「齋藤孝のざっくり!美術史」を比較する。2つの評論文の共通点や相違点を明らかにし, 「読者を惹き付ける論展開」について自分の考えをまとめさせたい。その際, どちらの評論文がより説得力があるか自分の立場を明確にして, 批判的に2つの文章を読ませたい。

3 単元について

(1) 生徒について

生徒は, 今年度に入ってから説明的な文章を中心教材とする学習を2度行っている。

最初は, 「生物が記録する科学」(佐藤克文)を中心教材とした学習である。単元名を「ステップアップ作戦!磐井中スタンダードをプレゼンしよう」として学習を進めた。この学習を通して, 生徒は以下のことを学習した。

- ・プレゼン資料や原稿を考えた場合に, 「尾括式」か「双括式」の文章構成が適していること。
- ・「事実」である調査結果やアンケート, インタビューなどで信頼性を高めることができること。
- ・問題提起→事実→考察の順序が読み取る側はとらえやすいこと。

2度目は, 「モアイは語る - 地球の未来」(安田喜憲)を中心教材とした学習である。単元名を「文章の構成や展開に着目しよう」として学習を進めた。この単元を通して, 文章の展開や構成について, 生徒は以下のことを学習した。

- ・序論部分では, 論点を分かりやすくするために問題提起文が多用されていること。
- ・問いと根拠(事実や調査結果など)の文章構成を活用しながら論展開していること。
- ・具体例を挙げることで, 主張をより現実味のあることとしてとらえさせることができること。
- ・本論部分では時系列で事実(調査結果も含む)が述べられ, その流れで考察が述べられていること。

課題として, 漠然とした大まかな文章構成のつながりを読む学習に終始したことが挙げられる。また, 筆者による文章構成や展開の工夫について批判的に読む学習段階も意図的に仕組むことができていなかった。これらの課題点を踏まえて, 本単元では以下の点を意識した学習を行っていきたい。

- ・効果的に読者を引き込む序論部分の役割について考える機会を設けること。
- ・本論部分での説明内容の順序には, 作者の意図が含まれていることを理解する機会を設けること。
- ・筆者の文章構成や展開の仕方などについて自分の考えをもつことができる場面設定をすること。

(2) 教材について

中心教材である「君は『最後の晚餐』を知っているか」(布施英利)は、レオナルド・ダ・ヴィンチの描いた「最後の晚餐」がいかにかっこいいものであるのかを論じた双括弧の文章構成によって書かれた評論文である。評論文については、以下のように定義する。

評論文

筆者が物事の良し悪しや価値などを判断し、読み手を同調させ惹きつけようとする文章のこと。

序論では、疑問文を重ね、最後に「同意を得るための疑問文」を用いることで、レオナルド・ダ・ヴィンチの話題へと読者を誘導している。そして、「最後の晚餐」が「科学が生み出した新しい芸術」であることを紹介するとともに、「かっこいい」という筆者の結論的見解を示している。

本論では、「最後の晚餐」を「読む」ことからスタートし絵画自体を「見る」ことで分析している。本論部分で取り上げられている分析の観点は以下の順序である。

【絵画を読む分析】

【絵画を見る分析】①解剖学を駆使した手の描写

②遠近法を駆使した絵の構図

③明暗法を駆使した現実の部屋との融合

この【絵画を読む分析】から【絵画を見る分析】の観点は、筆者が読者を惹き込む工夫として、順序を意識しながら書かれたものだと考えた。

本論部分と結論部分は筆者が絵画を分析している連続性の中で書かれている。そして、だからこそ「最後の晚餐」は「かっこいい」のだと結論づけ、500年経った今でも、新たな発見のある「最後の晚餐」の芸術の永遠性を述べている。

また、補助教材として、齋藤孝の『齋藤孝のざっくり！美術史』を用いる。齋藤氏は、「最後の晚餐」を「本質をとらえようという思いを超えて突き詰めていった果てに出会った、新しい絵画のビジョン」としている。「時間」と「空間」的に有り得ない絵画であることを述べた上で、「手」と「顔」の描写が、その有り得ない絵画に実在性を与えていると主張している。

布施氏の評論文とは違う観点で「最後の晚餐」に迫り、別の結論にたどり着いている点を比較することで、筆者の意図を伝えるために文章の構成や展開が工夫されていることを理解することができる。と考える。

4 指導と評価の計画

(1) 単元の指導目標

【国語への関心・意欲・態度】

・筆者の意図をもった文章としての評論文の内容に関心をもち、論理的構成について考えを深めようとする。

【読むこと】

- ・文章全体の中で序論・本論・結論部分が果たしている役割について理解することができる。(イ)
- ・自分の考えを効果的に伝えるために筆者が工夫した文章の構成や展開について、根拠を明確にして自分の考えをまとめることができる。(ウ)

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

・筆者の意図によって文章の展開に違いが生じることを理解することができる。(イ(オ))

(2) 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・評論文に関心をもち、筆者の工夫やその効果について自分の考えをもとうとしている。	・序論・本論・結論部分が文章全体の中で果たしている役割をとらえ、内容の理解に役立てている。 ・筆者の意図を踏まえ、読者を惹きつけるための文章の構成や展開の工夫について、根拠を明確にして自分の考えをまとめている。	・筆者の考えを読者に伝えるための評論文という文種を理解し、目的によって文章の展開に違いがあることを理解している。

(3) 単元の指導計画及び評価規準

次	時	指導目標	評価規準	【学習過程】と評価方法
第一次	1	・学習の見通しをもち、評論の特徴について関心をもとうとする。	学習の見通しをもち、「最後の晚餐」について関心をもち、評論を読み解こうとしている。【関・意・態】	【単元の見通しをもち】 ・見通しを持つ。 観察 話し合い内容 ワークシート記述
	2	・文章全体の中で序論・本論・結論部分が果たしている役割について理解することができる。	序論・本論・結論部分が文章全体の中で果たしている役割をとらえ、内容の理解に役立てている。【読む能力-I】	【序論・本論・結論の役割に気づく】 ・役割を理解する。 ワークシート記述 話し合い内容
第二次	3 (本時)	・本論部分の書かれ方の順序について考え、筆者の意図について根拠を明確にして考えをもつことができる。	本論部分の書かれ方の順序について考え、その順序で説明している筆者の意図について、根拠を明確にして自分の考えをまとめている。【読む能力-U】	【本論展開について考える】 ・展開の順序性を考える。 話し合い内容 ワークシート記述
	4	・筆者が結論に読者を導くために施した文章の構成や展開の工夫とその効果について自分の考えをもつことができる。	結論に導くための文章の構成や展開の工夫とその効果について、根拠を明確にして自分の考えをまとめている。 【読む能力-U】	【結論について考える】 ・結論への導き方を考える。 ワークシート記述 話し合い内容
第三次	5	・2つの「最後の晚餐」についての評論文を比較し、その妥当性を考えることができる。	2つの「最後の晚餐」についての評論文を比較し、文章の構成や論の展開の仕方の違いについて考え、その妥当性について自分の考えをまとめている。 【読む能力-U】 筆者の意図により、評論文の展開は変わってくることを理解している。 【伝国-I(オ)】	【論理性を比較する】 ・結論への導き方を比較する。 ワークシート記述 話し合い内容 ・単元を振り返る。
活用場面		今後、新入生に向けた磐井中学校の魅力紹介文を作成する場面や社会に向けた意見文を書く場面を設ける。その中で、「本論」で説明する内容の配列を、意図をもって配列することを心掛けさせる。「読むこと」によって得た言語技術を、「書くこと」によってしっかりと定着させる場面を設ける。		

5 本時について

(1) 指導の構想

本時では、本論の3つの「絵画の科学」の順序性に気づき、筆者の論展開の意図について自分の考えをまとめる学習をする。

始めに、順序を意識させながら、本論後半から結論部分を音読させ、3つの「絵画の科学」書かれ方の順序について考えさせる。

次に、なぜ、そのような順序で筆者は書いたのか、筆者の意図について考えさせる。その際、「説明の大ルール」を提示し、本文がその大原則に反した順序で書かれていることを出発点として、筆者の読者を惹き付ける工夫について自分の考えをまとめさせたい。

(2) 指導目標

- ・本論部分の書かれ方の順序について考え、筆者の意図について根拠を明確にして考えをもつことができる。

(3) 評価規準

- ・本論部分の書かれ方の順序について考え、その順序で説明している筆者の意図について、根拠を明確にして自分の考えをまとめている。【読む能力-U】

(4) 展開 (3時間目 / 5時間扱い)

■前時の学習内容

- 双括弧の文章構成を確認し、序論部分と結論部分の違いについて理解する。
- 序論部分における疑問文の必要性について理解する。
- 本論部分の3つの「絵画の科学」の順序性について理解する。

段階	学習活動	学習内容	時	備考欄								
導入	1. 前時を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ○3つの「絵画の科学」の並び方について対話を通して振り返る。 ○【説明の大原則】との矛盾について理解する。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <th>大原則</th> <th>小原則</th> </tr> <tr> <td>概要から詳細</td> <td>左から右</td> </tr> <tr> <td>全体から部分</td> <td>上から下</td> </tr> <tr> <td>大きい情報から小さい情報</td> <td>外から中</td> </tr> </table>	大原則	小原則	概要から詳細	左から右	全体から部分	上から下	大きい情報から小さい情報	外から中	6	<p>【文章展開の視覚化】 絵を活用しながら「説明の大原則」について理解する。</p> <p>《意図》 読者に気づかせたいこと。</p>
	大原則		小原則									
概要から詳細	左から右											
全体から部分	上から下											
大きい情報から小さい情報	外から中											
2. 「説明の大原則」を確認する。	○本論展開に、筆者の意図があることに気づく。											
<p>布施さんは、なぜ、3つの「絵画の科学」を細部から全体へと視野が広がるように並べたのだろう。</p>												
展開	3. 課題を把握する。											
	4. 本時の学習を見通す。	○「一つの要因」という言葉をもとに、結論部分に筆者が伝えたい「最大の要因」があることを予想し、課題解決の見通しをもつ。	3	【読解内容の活用】 「一つの要因」という言葉に着目する。								
	5. 結論部分を通読する。	○結論部分のどこに「最大の要因」が書かれているか見付けながらペア読みをする。	3									
	6. 本論の文章展開の意図についてグループで話し合う。	○「主張」「理由」「根拠」「結論」という観点でグループの考えを双括弧でまとめる。	10	【読解内容の活用】 「全体」「カッコいい」という言葉を手掛かりに、筆者の意図に気づかせる。								
7. グループで話し合ったことを発表する。	<p>【根拠として抑えさせたい言葉】</p> <p>「全体」＝人物の輪郭が作る形。その連なり。 絵の構図がもっている画家の意図。</p> <p>→「レオナルドが描きたかったのは『それ』なのだ。」</p>	13										
→「全体」について、板書で同時にまとめていく。			12									
8. 自分の考えをまとめ、発表する。	○グループ、全体での話し合いを受けて「主張」「理由」「根拠」「結論」という観点で自分の考えを双括弧でまとめる。											
<p>予想される生徒の「自分の考え」の記述例</p>												
<p>布施さんは、読者に絵の最大のかっこよさに気づいてほしくて段々離れていく順序にしたと思います。</p> <p>理由は、「カッコいい」と考える一番の要因が、修復したことで見えてくる全体の構図や形であり、それに気づいてもらいたくて絵からだんだん離れていく並び方にしたと考えたからです。</p> <p>だから、絵の全体を読者に見てほしくて段々離れていくような視点の順序で書いたと思います。</p>												
終末	9. 本時の学習を振り返る	○何が分かったのか、できたのか振り返る。	3									
	10. 次時の確認	○次時の見通しを持つ。										

■次時の学習内容

- もう一つの効果から分かる筆者の意図に気づき、自分の考えをまとめる。
- 「切り口」の順序性から生まれる効果と筆者の意図について話し合い考えを深める。
- それぞれの「切り口」の説得力について自分の考えを持つ。